

このため、生産費に占める労働費の割合は、さつまいもはじゃがいもに比べ倍以上とも言われている。さらに、最近では、早期肥大と出荷のためマルチ栽培が普及し、その被覆材料等コストの増嵩を招いている。したがって、今後のさつまいも栽培については、生産コスト低減のための機械化技術の完成が待たれるところである。

さつまいもの加工食品は、古くからも存在するが、最近では地方ばかりでなく、有力製菓会社においても、いも類を原料とする新製品の開発意欲と原料に対する関心は強い。

産地における貯蔵施設の拡充等によって、原料供給幅の延長化がはかられつつあるが、出廻り最盛期におけるペースト、フレーク等、新食材の加工、開発等によって原料供給の周年化への期待が持てるようになった。

じゃがいも品種については、すでに国の試験場においても、アントシアンを含む赤紫色の品種や、調理後に黒変しない品種など、需要サイドの望む方向の研究・育成がおこなわれており、採種組織を通じ新しい品種の出廻りも遠くないものと思われる。

おわりに

初年度に実施したいも類の需要拡大事業の内容等について述べたが、これら事業以外にも試験研究機関を対象に「特定農産物緊急技術開発」が農林水産省事業でスタートすることになった。

これは平成元年度から5ケ年にわたり、国・公立農業試験場等において、甘しょ挿苗の機械化、新タイプ品種の利用技術、加工用ばれいしょの生産・貯蔵技術等、生産性の向上並びに新用途の開発に向け、すでに研究が着手されていると聞く。その成果に大きな期待を寄せるものである。

いも類は、わが国畑作地帯における基幹作物として農業経営上重要な地位を占め、今後もその生産が維持発展されることを真に願うものであるが、今回とられたでん粉原料用いも類緊急対策を契機とし、関連事業の実施推進に併せ、生産者・生産団体、加工・流通企業等の密接な連携のもとにそれぞれの体制整備と強化をはかることによって、いも作及び関連食品産業に明るい展望が開かれるものと思われる。

中国サツマイモ視察記(序)

～「日中甘藷文化表裏一体説」～

サツマイモ資料館 館長 山田英次

1. 動機と目的

川越いも友の会として甘藷調査団を派遣するのは、昭和62年8月の鹿児島行きに次いで2回目である。中国の甘藷事情を調査しようという動機とその目的は、次のようなことからであった。

「中国は、世界のサツマイモ全生産量の80

%以上を生産しているにもかかわらず、情報がほとんど入ってこないため、その詳しい実態がわからない。よって、実際に甘藷の栽培状況や研究施設・利用状況を見聞し、できるだけ多くの甘藷研究者と交流し、中国の現状と問題点を知り、今後の甘藷の将来像についての考察をしてくる。また、

過去に一度、農水省の育種研究者（久木村先生）レベルの訪中（1985年10月）はあったが、民間レベルの甘藷友好交流ははじめてであり、今後の日中交流の橋渡しをしてくる」というものであった。

この他に、団員各自としては、それぞれに

- ・日本より戦時中伝わった勝利百号（沖縄百号）の情況と、現在の主要品種情況。
- ・中国の甘藷料理と、中国版現代甘藷百珍「甘藷食品」（料理本）のその後の影響。
- ・中国人の、イモに対する最近の意識。
- ・北京等の都市部での焼芋事情。
- ・甘藷の特殊な利用情況。
- ・中国甘藷文献資料類の収集。
- ・日本への甘藷加工品の輸出情況。
- ・中国の甘藷先生や功績碑等について。

などの調査目的があった。

〈団員のメンバー構成〉

友の会としては、4月に参加者の募集をしたが、会員の内より集まったメンバーは、次のような6名の団員であった。

訪中後の反省として、研究所を中心に視察したため、「育種学者・栽培技術者・中国語堪能者」のメンバーが欠けていたことが、ひとつの欠点であった。

- ①団長：井上浩（友の会研究部会長・県立高校教諭）
- ②副団長：柏俣和夫（県立農業高校教諭）
- ③事務局：山田英次（サツマイモ資料館長）
- ④団員：小野真知子（名古屋女子大学調理学教授）
- ⑤ “：齊藤興平（甘藷問屋「川小商店」社長）
- ⑥ “：芝敏晃（鹿児島県鹿屋農林事務所農政課技術主査）…であった。

2. 視察期間と主な訪問先

（期間）1990年8月22日～30日 8泊9日

中国でも、まだ残暑の厳しい季節で、サツマイモの収穫期には早すぎた。夏休みを利用していたため、やむを得なかったが、本来、中国の甘藷栽培収穫地帯は5つの地区に分類でき、今回訪問した黄河流域地区は10月20日頃よりが本番の収穫期であった。

次回、第二次の訪中団を派遣するときは、10月下旬～11月の時季に設定するよう考えなければならない。

（訪問先）

①北京：中国農業国際交流協会（中国農業部内）

②山東省済南：山東省農業科学院作物研究所甘藷研究室
山東省酒精（アルコール）工場
済南市郊外農村（畑・苗床・貯蔵）
甘藷酒製造工場

③江蘇省徐州：徐州農業科学研究所（徐州甘藷研究センター）

④江蘇省南京：江蘇省農業科学院糧食作物研究所甘藷研究室

⑤上海：上海市農業科学院園芸研究所

反省として、中国側でも盛り沢山に視察してもらおうという意図が働いて、かなりのハードスケジュールであった。夏で暑い上に、歓待の御馳走責め（トータルして三百皿以上の料理が出た！）で、落着く暇もなく、重い旅行鞆を持ってホテルや施設を移動して歩いたが、随行してくれた協会副理事長・邢先生と通訳の連先生も、かなり疲れた様だった。

3. 準備の苦労

今回の甘藷調査団は、はじめから準備がスムーズにいった訳ではない。団長の井上先生

バレイショ増収一〇〇〇問答

■三百回余りの講演で、いも作従事者からいたいた千四百余の質問を整理し、これに回答。基本から植付け、収穫・防除までを解説し、厳しさが加わる現代農家に大きな指針を示す好著。北大助教授・吉田稔著 定価七〇〇円 送料二五〇円

清薯源流の砦

■現在の種苗管理センターのいも作関係は、昭和二二年に創設された「馬鈴しょ原種農場」がその出発である。各農場の歴史と現況を報告した本書は、関係者必携の好資料。各農場職員名簿付。いも類振興会編・定価七〇〇円 送料二五〇円

21世紀に向けてのいも作り

■生涯を北海道のバレイショ作に投入した著者快心の著作。その視野は需要者の品質要望から国際競争力まで、魚眼レンズのようにひろがり、いも作従事者の今後の指針を示す。吉田稔著 定価六〇〇円 送料二五〇円

アンデスから食卓まで

■ジャガイモのふるさとアンデスから出発し、その料理法や品種の特性、栽培から食卓への供給までを、オールカラーで紹介。読んで楽しく、為になる小冊子。田中智著 定価三〇〇円 送料一七〇円

熱帯アジアの馬鈴薯生産

■東南アジアの馬鈴しょ生産の実態を、各国のレポートから翻訳した貴重な資料。とくにシンポジウムでの発表は、わが国馬鈴しょ作に大きな示唆を与えるものである。秋元喜弘著 定価八〇〇円 送料二五〇円

は、一年以上前から中国のサツマイモ事情に関する文献資料を丹念に調べ尽し、訪中経験が豊かな小野真知子先生と何度も打合せを繰返した。

当初は、中国のサツマイモの伝来地・福建省を調査する予定でいたが、旅行会社を通して日程を組んでもらったところ、ほとんど甘藷に関する日程は入っていなかった。大いに弱ったのは団長の井上先生で、あちらこちらに手をのばして人脈を経由したところ、東京外語大学の先生より、今回の計画に最もふさわしい日本在住の中国人・滕平先生を紹介していただいた。それは、本当に幸運なことに中国の農業大臣に直接コンタクトできる方だった。滕先生は、5月中旬に北京に仕事をしにいくかわら、井上先生の資料類を持って中国の農業部（日本政府の農水省と同じ）と交渉をしてくださり、調査団の受入れは中国農業国際交流協会が行なう由の、親書を

とってきてくれた。後日、社会主義国の中国ではとにかく人脈が大事で、それもタテ系列の人脈が特に大事であることを教わった。

また、甘藷の調査に行くなら、山東省と江蘇省に行った方がよいことも教わり、とにかく交流協会と、FAX文書でどしどし連絡し合った方がよいことも指示された。しかし、旅行会社を通さないで、直接中国大使館へビザ申請や、中国文でくるFAX文書を訳して再度こちらからの要望を何度も交渉連絡することは、かなり骨のおれることであった。

いも類振興情報 第26号

平成3年1月15日発行

発行所 財団法人 いも類振興会
東京都港区赤坂6-10-41
ウィップ赤坂303号室
電話 03-588-1040
振替・東京 3-110152
印刷所 交通印刷株式会社